

授業科目名	経済学入門(国)	担当教員名	藤井 美男				
科目ナンバリング		開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次	1年生

授業概要	過去との対話を通じて学ぶ経済学「超」入門					
	本講義は、入学して間もない1年生を主たる対象として、ミクロ経済学やマクロ経済学あるいはそれらの応用編を学ぶ大前提としての基礎的な内容を軸に展開される。そもそも人間の経済的営みとは何か、という考察から始まり、現代経済社会の基本的特徴と意義の把握、それが形成されてくる背景と理由、経済「世界」を眺めるさまざまな視点、そしてミクロ経済学とマクロ経済学の基礎的把握などが内容となる。					
到達目標	経済について一定の関心を持てるようになる。また、経済的現象について一定の考察をすることができるようになる。そして、経済的事実や経済学的用語などを必要な文脈に沿って的確に説明できるとともに、自己の見解を述べることができるようになる。					
評価の方法と基準	評価方法	割合(%)	評価基準・その他備考			
	平常点					
	小テスト	10	中間ミニテスト(あるいはミニ課題)を全体評価の10%とする。(予定)			
	レポート					
	定期試験	90	定期試験の結果を全体評価の90%とする。(予定)			
	その他					
事前・事後学習	本講義は特定の教科書を定めず、事前に配布(配信)するPDFファイルの資料を用いるノート講義とする。事前にそれを読読して大まかな内容を把握しておく必要がある。そして、授業後はその内容を反復しつつ自分なりに整理することで、経済学に関する基礎知識を涵養することができる。					
事前受講を推奨する科目						
教科書	書籍名	著者	出版社	出版年		
	『教科書は使用しない。』					
参考書	書籍名	著者	出版社	出版年		
	『授業の中で随時紹介する』					
備考	本講義は、新型コロナウイルス感染症対策のため、オンデマンド授業に変更することがある。講義資料のダウンロードや授業の詳細については、Googleclassroom等を通じて通知されるので、遺漏しないよう留意することが必要である。なお、授業の内容と進行についてシラバスに変更を加えることがある。その場合は授業中に説明する。					

授業の計画

1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価方法、講義全体像の紹介（シラバス参照）
2	「経済」とはなにか	コロナ・パンデミックで露わとなった人間の「経済的営為」の本質
3	現代経済社会の特質とはなにか	資本主義社会の特徴をつかむ
4	市場型経済社会の成立過程（1）	パックス・ブリタニカに至る道を事例として（1）
5	市場型経済社会の成立過程（2）	パックス・ブリタニカに至る道を事例として（2）
6	経済的合理性とはなにか（1）	経済的合理性（＝資本主義の精神）の源流（1）
7	経済的合理性とはなにか（2）	経済的合理性（＝資本主義の精神）の源流（2）
8	中間ミニテスト（あるいはミニ課題）実施	10点満点のミニテスト(あるいはミニ課題)を実施（予定）
9	様々な経済観（1）	アダム・スミスからウォーラステインまで（1）
10	様々な経済観（2）	アダム・スミスからウォーラステインまで（2）
11	経済学「超」入門（1）	ミクロ経済学・マクロ経済学：基礎の基礎を学ぶ（1）
12	経済学「超」入門（2）	ミクロ経済学・マクロ経済学：基礎の基礎を学ぶ（2）
13	経済学「超」入門（3）	ミクロ経済学・マクロ経済学：基礎の基礎を学ぶ（3）
14	経済学「超」入門（4）	ミクロ経済学・マクロ経済学：基礎の基礎を学ぶ（4）
15	全体のまとめ	本講義の全体的な整理と総括

授業科目名	経営学入門	担当教員名	西田 郁子				
科目ナンバリング		開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次	1年生

授業概要	<p>本講義では企業とは何か、経営学とは何か、われわれの社会や生活にどのように関係しているのかを考えます。「経営学」と聞いてみなさんは「経営者のための学問」、「お金儲けの学問」を連想するかもしれませんが、そのような側面もあるかもしれませんが、それだけではありません。経営学を学ぶことは世の中をより良きものとする術を会得することでもあります。そしてこれが学問としての経営学の本質なのです。マネジメント能力はどのような職業に就くにしても必要であり、ここに経営学を学ぶことの意義があるのです。</p>
------	---

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営学の入門的な知識についてその内容を理解する。</li> <li>・企業の諸問題について関心を持つ。</li> <li>・サークルなど身近な組織の運営の諸問題に関心を持つ。</li> </ul>
------	--

評価の方法と基準	評価方法	割合 (%)	評価基準・その他備考
	平常点		
	小テスト		
	レポート		
	定期試験	70	
	その他	30	課題等の提出状況で評価します

事前・事後学習	<p>事前学習として、下記のテキストの該当箇所を事前に熟読すること。 事後学習は、配布資料を再度確認し、専門用語やポイント等を各自で整理しておくこと。</p>
---------	---

事前受講を推奨する科目		
-------------	--	--

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『現代の企業経営』	西田 安慶・林純子	三学出版	2021年

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『ゼミナール経営学入門 第3版』	伊丹敬之・加護野忠男	日本経済新聞出版社	2018年

備考	
----	--

授業の計画

1	ガイダンス	経営学の全体像
2	現代企業とその社会的役割	企業と社会
3	コーポレート・ガバナンス	企業の経営と統治
4	経営戦略（1）	経営理念と戦略
5	経営戦略（2）	競争戦略のマネジメント
6	経営戦略（3）	多角化戦略のマネジメント
7	経営組織（1）	経営組織の成立と分権・集権
8	経営組織（2）	人事管理と人事制度
9	経営組織（3）	モチベーションとリーダーシップ
10	マーケティング	マーケティングの基本戦略
11	生産管理	製品やサービスの開発と生産
12	国際経営	国際化のマネジメント
13	財務管理	資金の調達と運用
14	デジタル経営	デジタルが変える企業経営
15	アントレプレナーシップ	アントレプレナーシップの社会的意義

授業科目名	商学総論	担当教員名	柳 純				
科目ナンバリング		開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次	1年生

授業概要	<p>本講義は初年次における商学を理解するために設けられています。生産と消費の諸活動をつなぐ重要な役割を果たしているのが流通であり、その主体となるのが卸売業、小売業を中心とした商業になります。本講義では商業の意義や役割、現代の商品流通の仕組みについて説明していきますが、近年、商業を取り巻く環境も劇的に変化していることを鑑みて、具体的な事例を盛り込みながら講義を進めていきます。講義前半部分では、商業の生成、商業構造を知るとともに流通機能についても理解を深めながら小売業態の変遷を分析・検討します。そして、後半部分では商店街やショッピングセンターである商業集積、さらには無店舗販売における知識を深め、今日の商業が国際化している点やその展開について紹介していきます。</p>					
到達目標	<p>商学に関する基礎知識を習得し、専門用語について理解することができる。          商業が担う役割や商業存立の意義について説明することができる。          商品流通に関する興味や関心をもつことができる。</p>					
評価の方法と基準	評価方法	割合 (%)	評価基準・その他備考			
	平常点					
	小テスト					
	レポート					
	定期試験	80	定期試験期間中に実施します			
	その他	20	課題の提出状況で評価します			
事前・事後学習	<p>事前学習として、下記のテキスト、参考書をはじめとし商学や商業に関する専門書を事前に熟読すること。          事後学習は、毎回配布する資料の内容を再度確認し、専門用語やポイント等を各自で整理しておくこと。</p>					
事前受講を推奨する科目						
教科書	書籍名	著者	出版社	出版年		
	『流通と商業の基礎理論』	岩永忠康ほか	五紘舎	2020年		
参考書	書籍名	著者	出版社	出版年		
	『新・流通と商業（第6版）』	鈴木安昭	有斐閣	2016年		
	『商学への招待』	石原武政・忽那憲治 編	有斐閣	2013年		
備考	<p>(1) 授業形態：対面授業          (2) 授業資料の配信方法：Google Classroom（配布資料をアップロードします）          (3) 授業資料の配信スケジュール：毎週火曜日18時まで          (4) 質疑応答、意見交換の方法：講義終了後またはメールで実施</p>					

授業の計画

1	講義ガイダンス	講義概要、成績評価・方法などを説明する。
2	商業の基礎概念（1）	商学を取り巻く学問領域および商学と商業学の体系について解説する。
3	商業の基礎概念（2）	商業の生成と商業機能および商業の概念について解説する。
4	流通機構	商品流通の態様や商業の役割および商品流通のタイプについて解説する。
5	日本の流通システム	日本の流通システムおよび取引慣行について解説する。
6	卸売業（1）	卸売業の位置づけやその機能や特性について解説する。
7	卸売業（2）	卸売業の経営およびリテールサポートについて解説する。
8	小売業（1）	百貨店の生成とその展開について検討しながら解説する。
9	小売業（2）	専門スーパーマーケットと総合スーパーマーケットに関して解説する。
10	小売業（3）	コンビニエンス・ストアに実態把握と可能性について解説する。
11	小売業（4）	その他の業態（ディスカウントストア、製造小売等）に関して解説する。
12	商店街とショッピングセンター	伝統的な商業集積（商店街）と計画的な商業集積（ショッピングセンター）について解説する。
13	無店舗販売（1）	無店舗販売の実態や商取引の電子化に関して解説する。
14	無店舗販売（2）	無店舗販売における事例研究の紹介をします。
15	商業の国際化	商業の国際展開と外資参入とその事例研究。

授業科目名	マクロ経済学 (国・公)	担当教員名	磯谷 明德				
科目ナンバリング		開講学期	秋学期	単位数	2単位	配当年次	1年生

授業概要	<p>マクロ経済学は、経済を巨視的にとらえ、経済全体の性質について考えようとする経済学の分野である。マクロ経済学は、景気、雇用、物価、通貨、為替など、経済全体に関わる問題を対象にする。本講義では、マクロ経済学の基本的な概念や考え方を理解することに主眼を置き、「なぜマクロ経済学は必要か」から始めて、一つのストーリーとしてマクロ経済学という学問を理解できるような形で講義する。</p> <p>なお、この「マクロ経済学」では、マクロ経済学という学問全体の6割程度の内容が講義される。残りの4割程度については、「マクロ経済学 (2年次春学期)」で講義されるのを注意して欲しい。</p> <p>(【経済学科学生への注意】：上で記述のように、マクロ経済学 は2年次春学期に開講される。マクロ経済学 に続いて、マクロ経済学 を連続して履修することを強く推奨する。)</p>
------	--

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>マクロ経済学の基本的な概念を理解する。</li> <li>現実のマクロ経済の動向をマクロ経済学の基礎的な知識と考え方をを用いて理解することに関心を持てるようになり、今後のより専門的な経済学の学習の基礎的な素養を習得することを目標とする。</li> <li>マクロ経済学の基礎知識を身につけることで、日ごろ見聞きする経済ニュースに直結する経済現象や政策について、自分なりの判断や評価ができるようになる。</li> </ul>
------	--

評価の方法と基準	評価方法	割合 (%)	評価基準・その他備考
	平常点	40	ミニッツペーパーの提出
	小テスト	20	理解度確認テスト。複数回実施予定
	レポート		
	定期試験	40	期末試験
	その他		

事前・事後学習	事前学習として、前回の講義内容を復習しておくこと。毎回の講義に対して、ミニッツペーパーの提出が必須なので、講義内容への疑問点などを事後学習として整理すること。
---------	---

事前受講を推奨する科目	
-------------	--

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『教科書は使用しない。』			

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年

備考	
----	--

授業の計画

1	授業ガイダンス	講義の進め方、成績評価の方法・基準などについて説明する。
2	なぜマクロ経済学は必要か	ミクロ経済学とは別個に、なぜマクロ経済学という学問分野が存在するのかについて説明する。
3	なぜマクロ経済学は必要か	第2回講義の続き
4	国民所得の測定	GDPとは何かなど、国民所得統計について説明する。
5	国民所得の決定 -1	消費関数と45度線分析（前編）
6	国民所得の決定 -2	消費関数と45度線分析（後編）
7	国民所得の決定 -1	45度線分析とマクロ経済政策の基礎（前編）
8	国民所得の決定 -2	45度線分析とマクロ経済政策の基礎（後編）
9	国民所得の決定 -1	乗数理論（前編）
10	国民所得の決定 -2	乗数理論（後編）
11	国民所得の決定 -1	投資関数：投資と利子（前編）
12	国民所得の決定 -2	投資関数：投資と利子（後編）
13	国民所得の決定 -1	利子と貨幣（前編）
14	国民所得の決定 -2	利子と貨幣（後編）
15	IS-LM分析	ケインズ体系とIS-LM分析



授業科目名	ミクロ経済学（国・公）	担当教員名	野津 隆臣				
科目ナンバリング		開講学期	秋学期	単位数	2単位	配当年次	1年生

授業概要	<p>本講義ではミクロ経済学の基礎的な知識を学ぶ。ミクロ経済学には幅広いテーマがあるが、本講義では市場の理論を中心に学ぶ。消費者行動の分析、企業行動の分析、市場均衡といったトピックスを紹介し解説を行う。また、理論を応用して経済政策について考える。</p> <p>講義ではグラフを用いて解説するため、高校数学の関数とグラフについて復習しておくこと。</p>
------	---

到達目標	<p>事例や図解を通じて以下の点を理解することを目標とする。</p> <p>ミクロ経済の用語及び各テーマの概要を把握する。</p> <p>関連した図の解釈や曲線などの移動の条件がわかるようになる。</p> <p>ミクロ経済学の知識を用いて、現実事象の説明ができるようになる。</p>
------	---

評価の方法と基準	評価方法	割合（％）	評価基準・その他備考
	平常点	25	講義中に指示する
	小テスト		
	レポート		
	定期試験	75	講義中に指示する
	その他		

事前・事後学習	<p>事前学習：講義資料を活用し、講義内容を把握してできるようにすること。</p> <p>事後学習：講義中の解説について内容をまとめる。また参考書等を活用し内容を検討する、グラフの解説は文章化しておく、計算例は計算過程を復習すること、講義中に課題を提示するのでそれに取り組む。</p>
---------	--

事前受講を推奨する科目	新聞や経済雑誌を読み、経済に触れておくことを推奨する。	
-------------	-----------------------------	--

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『スタンフォード大学で一番人気の経済学入門 ミクロ編』	ティモシー・テイラー	かんき出版	2013

備考	
----	--

授業の計画

1	イントロダクション	ミクロ経済学はどのような学問か知る。
2	需要と供給	市場、需要及び供給の概念を理解する。
3	消費者行動(1)	需要の法則について知る。
4	消費者行動(2)	効用の概念を理解する。効用と消費者行動について考える。
5	消費者行動(3)	予算制約の概念を理解する。予算制約と消費者行動について考える。
6	価格弾力性	需要曲線の特徴を学ぶ。価格弾力性の考え方を説明できるようになる。
7	生産者行動(1)	供給の法則について知る。
8	生産者行動(2)	生産要素、費用について考える。
9	生産者行動(3)	供給曲線について学ぶ。
10	市場均衡(1)	市場均衡の概念を理解する。
11	市場均衡(2)	超過需要、超過供給からの均衡までの調整過程について学ぶ。
12	価格統制と規制	経済政策のひとつである価格の上限規制や、市場への規制の影響について考える。
13	市場の失敗(1)	外部性の概念を理解する。
14	市場の失敗(2)	公共財の概念を理解する。
15	まとめ	これまでの学習内容のまとめと補足を行う。

授業科目名	経営情報学入門	担当教員名	松本 義之				
科目ナンバリング		開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次	1年生

授業概要	<p>現代社会において、情報システム・IT機器は必要不可欠なものになっている。また、企業の経営活動においても同様である。オフィスにはコンピュータ機器が並び、スマートフォンやタブレットを使って営業活動を行い、SNSやメッセージ交換サービスを利用して広報宣伝活動や市場調査・分析などが行われている。また、withコロナ・afterコロナの時代において、情報システム・IT機器の重要性は、更に高まると考えられる。</p> <p>本講義は、経営・経営情報の入門科目として位置づけられている。まず、経営活動を支える情報技術について学ぶ。その後、様々な情報システムが現代社会において、どのように利用されているかを学ぶ。情報セキュリティ・SNSマーケティング・インターネット広告・人工知能利用など、具体例を挙げて考察していく。</p>
------	--

到達目標	<p>企業において利用されている情報技術の基本について理解する          情報システムを利用した様々なサービスについて理解する          企業における情報システムの応用例について理解する</p>
------	---

評価の方法と基準	評価方法	割合(%)	評価基準・その他備考
	平常点	30%	授業終了時に課題を提示
	小テスト		
	レポート		
	定期試験	70%	持ち込み不可
	その他		

事前・事後学習	Google Classroomで学習用コンテンツ・課題を配布
---------	---------------------------------

事前受講を推奨する科目		
-------------	--	--

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『教科書は使用しない』			

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『日経コンピュータ』			日経BP社

備考	
----	--

授業の計画		
1	はじめに	講義の概要、成績の評価方法などを説明
2	経営を支える情報技術(1)	大型汎用機・パーソナルコンピュータ・スマートデバイス・マイクロコントローラなど
3	経営を支える情報技術(2)	コンピュータネットワーク・クラウド技術など
4	経営を支える情報技術(3)	関係型データベース・NoSQL・検索エンジンなど
5	情報システムの応用例(1)	スマートフォンやタブレット端末などが企業でどのように利用されているかを学ぶ。また、BYOD（私的デバイスの活用）について学ぶ
6	情報システムの応用例(2)	銀行などの金融機関において、情報システムがどのように利用されているか学ぶ
7	情報システムの応用例(3)	情報システムのセキュリティ技術について学ぶ。また、情報漏洩の事例について解説する
8	情報システムの応用例(4)	インターネット上にある大量のデータを分析する手法・応用例について解説する
9	情報システムの応用例(5)	家電製品やセンサー類に組み込まれているマイクロコントローラをインターネットに接続するIoTについて解説する
10	情報システムの応用例(6)	ソーシャルネットワークサービスの歴史や種類、ビジネス分野での応用について解説する
11	情報システムの応用例(7)	無料通話アプリ・メッセージ交換サービスなどについて解説する。また、これらのサービスを利用したマーケティングについても解説する
12	情報システムの応用例(8)	ソーシャルゲームの歴史や、これまでのコンピュータゲームとソーシャルゲームの収益方法の違いについて解説する
13	情報システムの応用例(9)	インターネットで行われている広告の種類や方法について解説する
14	情報システムの応用例(10)	人工知能技術や、人工知能がビジネスにおいてどのように利用されているかを解説する。
15	総括	講義全体のまとめを行う

授業科目名	国際経済学入門(国)	担当教員名	猿渡 剛				
科目ナンバリング		開講学期	秋学期	単位数	2単位	配当年次	1年生

授業概要	この授業は国際経済・グローバルビジネスの入門的内容を扱います。国際経済やグローバルビジネスに関心を持つ学生が理論と実際について基礎から学べるよう目指していきます。 授業ではまず、国際経済・グローバルビジネスを巡る環境について解説します。グローバル化の歴史的経緯、グローバル化を巡る課題や議論について説明します。次に、国際経済・グローバルビジネスの枠組み、具体的には保護主義化が強まっている最近の傾向を踏まえ、保護政策と自由貿易の論点のほか、世界貿易機関(WTO)の役割と課題についてみていきます。最後に、市場と経営資源を見据えた企業戦略について考察・分析するために有用なフレームワークを時間が許す限り紹介します。						
到達目標	国際経済・グローバルビジネスを巡る最近のトピックスを把握する。国際経済・グローバルビジネスを後方から支える制度的枠組みを理解する。さまざまな市場参入モデルの特徴や留意点を理解する。～を通じて、国際経済・グローバルビジネスの基礎について理解し、適切な企業戦略について自ら考え、議論することができるようになる。						
評価の方法と基準	評価方法	割合(%)	評価基準・その他備考				
	平常点						
	小テスト	30	小テストを2回課す予定です。				
	レポート						
	定期試験	70	空欄補充問題と論述問題で構成される期末試験があります。				
その他							
事前・事後学習	事後学習として資料や動画に再度目を通し、授業内容を各自整理しておいてください。						
事前受講を推奨する科目							
教科書	書籍名	著者	出版社	出版年			
	『グローバルビジネスの流儀』	池下譲治	晃洋書房	2023年			
参考書	書籍名	著者	出版社	出版年			
備考	PPTスライドまたは板書によって授業を進めていきます。						

授業の計画

1	イントロダクション	授業概要、授業の進め方、評価の方法と基準
2	グローバリゼーション(1)	グローバリゼーションとは何か、グローバリゼーションの現在・過去・未来
3	グローバリゼーション(2)	グローバル化を巡る議論
4	通商政策とWTO(1)	世界貿易の動向と分析、保護主義の台頭
5	通商政策とWTO(2)	関税、保護政策 V S 自由貿易の論点
6	通商政策とWTO(3)	世界貿易機関(WTO)の役割と課題
7	海外直接投資の動向・理論・政策(1)	グローバリゼーションと海外直接投資
8	海外直接投資の動向・理論・政策(2)	海外直接投資の主要理論
9	海外直接投資の動向・理論・政策(3)	海外直接投資の効果とコスト
10	グローバル市場への参入戦略(1)	参入市場の決定、グローバル市場への参入
11	グローバル市場への参入戦略(2)	主な参入モデル、撤退戦略
12	グローバル・マーケティング(1)	4つの基本戦略と組織構造
13	グローバル・マーケティング(2)	パルミュッターのEPRGプロファイル、グローバル市場のセグメンテーション
14	グローバル・マーケティング(3)	マーケティングプログラムの決定(4P 4C 4A)、カントリー・オブ・オリジン効果
15	まとめ	授業の振り返り、期末試験についての説明

授業科目名	経済原論（国・公）	担当教員名	関野 秀明				
科目ナンバリング		開講学期	秋学期	単位数	2単位	配当年次	1年生

授業概要	この講義のねらいは、今、私たちが暮らしている社会の基本システムである「資本主義」が私たちを取り巻くさまざまな人間関係に及ぼす肯定的、否定的影響を与えてきたかについて理論的に考えることです。なぜ人間が作り出した「貨幣」が人間を支配するようになったのか、なぜ人類史上空前の豊かな生産力を実現した「資本主義」が戦争も貧困も解決できないのか、なぜ中高年のリストラ・失業、若者の就職難と働きすぎ・過労死といった問題が同時におこるのか、といった現実のシビアな問題に取り組んで欲しいのです。
------	--

到達目標	貨幣のもつ魔力の科学的根拠を理解する 剰余価値・利潤が働く人からの搾取で成り立つことを理解する 成果主義賃金が「頑張るほど奪われる賃金制度」であることを理解する 資本の蓄積と貧困の蓄積は表裏一体であることを理解する 利潤のための経済が過剰な生産と制限された消費を生み停滞に至ることを理解する
------	---

評価の方法と基準	評価方法	割合（％）	評価基準・その他備考
	平常点		
	小テスト		
	レポート		
	定期試験	100	
	その他		

事前・事後学習	毎回の授業は当日配布する「講義レジュメ」を用いる。そのうえで、月刊『経済』編集部編『変革の時代と資本論 マルクスのすすめ』、とくに第7章、関野秀明「マルクスの剰余価値理論」を読むことは、予習、復習、両方に役立つ。
---------	--

事前受講を推奨する科目	経済学入門	
-------------	-------	--

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『教科書は使用しない』			

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『新版資本論』	カール・マルクス	新日本出版社	2020年
	『変革の時代と資本論』	月刊経済編集部編	新日本出版社	2017年
	『経済学辞典』		大月書店	

備考	対面授業を予定している。対面授業の継続が困難になった場合は以下の通り。遠隔授業はgoogle driveの資料で実施。学年暦、時間割に従い資料提供。Powerpoint資料を閲覧しWord、PDF資料に書き込む。
----	--

授業の計画

1	資本論の経済学とは何か	歴史研究、法則性研究、発生論的・弁証法的方法、階級性
2	商品論1	商品と労働の二重性
3	商品論2	価値形態論
4	商品論3	物神性論
5	商品論4 貨幣論1	交換過程論 貨幣の価値尺度
6	貨幣論2	流通手段 蓄蔵貨幣 支払手段 世界貨幣
7	剰余価値論1	貨幣の資本への転化
8	剰余価値論2	生産過程 絶対的剰余価値論
9	剰余価値論3	相対的剰余価値・特別剰余価値論
10	賃金論1	労働の価値と労働力の価値
11	賃金論2	時間賃金制度
12	賃金論3	出来高賃金制度
13	資本蓄積論1	所有法則の転換
14	資本蓄積論2	相対的過剰人口
15	資本蓄積論3	資本と貧困の蓄積 資本主義の歴史的傾向



授業科目名	簿記原理 (国)	担当教員名	高橋 和幸				
科目ナンバリング		開講学期	秋学期	単位数	2単位	配当年次	1年生

授業概要	<p>簿記は、「帳簿記録」の四文字が圧縮したものであるという説があるように、現金の収支、商品の仕入・売上、債権債務の発生・決済をはじめとする企業活動について記帳し、企業の財政状態と経営成績を明らかにすることを目的としている。ビジネス社会における共通言語が会計数値であるといわれるが、このような数値を産み出すシステムが簿記である。したがって簿記の知識を修得することは、将来ビジネス社会で活躍するためには必須のことといえる。本講義では、企業のうち商企業を対象とした複式簿記の基本的な構造や一連の手続きについて講義する。</p>
------	---

到達目標	<p>簿記に関心を持つ。 記帳の原理および主要な勘定科目の意味を理解する。 決算や財務諸表の作成までのプロセスを理解する。 簿記の果たす役割について理解する。</p>
------	---

評価の方法と基準	評価方法	割合 (%)	評価基準・その他備考
	平常点	40	講義中の問題演習や課題の提出が該当する。
	小テスト		
	レポート		
	定期試験	60	
	その他		

事前・事後学習	<p>事前学習(予習)としては、教科書の範囲を熟読しておくこと。事後学習(復習)としては、その回の配布資料等をもとに教科書の該当範囲の内容を整理したり、問題演習に取り組むこと。</p>
---------	--

事前受講を推奨する科目		
-------------	--	--

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『複式簿記概説』	鶴見正史編著	五紘舎	2020年

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『簿記テキスト(最新版)』	山下正喜編著	創成社	2009年

備考	<p>毎回、電卓等の計算機器を持参すること。ただし、プログラム機能や辞書機能(文字入力を含む)を有する電卓を、定期試験時に使用することは不可。また、毎回の積み重ねが重要であることに留意すること。 なお、本講義を履修後に「簿記原理」、「会計学原理」、「会計学原理」を履修することが推奨される。</p>
----	---

授業の計画

1	はじめに	講義概要などのガイダンス
2	簿記の基本	企業活動と簿記、簿記の意義及び歴史
3	簿記の基礎概念	簿記の要素(資産・負債・純資産(資本)・収益・費用)
4	簿記における取引	取引の意味と取引の8要素
5	勘定と仕訳(1)	勘定の意味(借方・貸方の理解)
6	勘定と仕訳(2)	勘定への記入、仕訳の意味と内容
7	帳簿の記入	仕訳帳と総勘定元帳、元帳転記
8	決算(1)	試算表の意義と作成(貸借平均の原理の理解)
9	決算(2)	精算表の意義と作成
10	決算(3)	元帳決算(仕訳帳と総勘定元帳の締切)
11	財務諸表の作成	貸借対照表と損益計算書の作成
12	諸取引の処理(1)	現金取引の処理と補助簿
13	諸取引の処理(2)	預金取引の処理と補助簿
14	諸取引の処理と記帳	簿記一巡の手続の概要と意義
15	全体のまとめ	商業簿記の基本的な仕組みや処理を総括する。

授業科目名	金融論	担当教員名	鶴沢 真				
科目ナンバリング		開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次	2年生

授業概要	<p>・わが国の金融システムは、高度経済成長期における銀行中心の間接金融システムから、90年代後半のバブル崩壊後の銀行危機、2008年のリーマンショックに端を発する世界的な金融危機を経て、直接金融を中心とするシステムへ変わりつつあり、金融機関に求められる機能も大きく変化している。高齢化や人口減少を背景とした低成長のなかで企業の資金需要は低調な一方、家計においては貯蓄から投資に向けた政策、キャッシュレス化を推進するような政策が推進されている。グローバル化の流れに加え、中央銀行においてもゼロ金利政策が継続される等、金融機関にとっての外部環境も変化している</p> <p>・金融の基本的機能、金融商品、金融市場に関して、出来る限り金融ビジネスにおける実務に役立つよう具体的に講義していく。それぞれのテーマに応じた実際のトピックスや歴史上の事件等を提示し、実際の対応を紹介する。受講する学生は自らの考え方を整理し、他人へわかりやすい説明ができるようになることが求められる</p>
------	--

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金融の基本的機能、金融市場や金融商品の仕組みを理解し、わかりやすく説明できる</li> <li>・金融に関連した現実の課題や、最近の動向について自分なりの意見を持てる</li> <li>・基本的な金融商品の仕組みを理解し、自ら購入することも検討できる</li> </ul>
------	--

評価の方法と基準	評価方法	割合（％）	評価基準・その他備考
	平常点	20	
	小テスト	40	
	レポート	40	
	定期試験		
	その他		

事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書である「テキスト金融論 第2版」第1章から第15章にしたがって講義を進めます</li> <li>・Google Classroomを利用し、講義資料をアップしますので、予習・復習を行って下さい</li> </ul>
---------	--

事前受講を推奨する科目	
-------------	--

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『テキスト金融論 第2版』	堀江康熙・有岡律子・森祐司	新世社	2021

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『下関市立大学 学びのハンドブック』			

備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この授業は、金融機関での実務経験のある教員が行う授業です。</li> </ul>
----	--

授業の計画

1	金融の役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ イントロダクション（金融論 で学ぶこと）</li> <li>・ 金融の基本的機能</li> </ul>
2	金融機関の機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 金融仲介と資産変換機能</li> <li>・ 情報生産機能</li> </ul>
3	通貨の役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 通貨とその機能</li> <li>・ 信用創造</li> <li>・ キャッシュレス決済</li> </ul>
4	資金の決済	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 銀行振込と決済</li> <li>・ 中央銀行の役割</li> </ul>
5	金融商品の価格	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 金利の役割</li> <li>・ リスク、価格と取引行動</li> </ul>
6	金融資産のリターンとリスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 不確実性の存在と選好</li> <li>・ ポートフォリオとCAPM</li> </ul>
7	金融取引と金融システム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 金融市場の機能とタイプ</li> <li>・ 金融取引の種類</li> </ul>
8	市場取引型市場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 金融市場の種類化</li> <li>・ 短期金融市場</li> </ul>
9	債券市場の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 債券利回りと変動</li> <li>・ デュレーション</li> </ul>
10	株式市場の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 株式市場と株式</li> <li>・ 株価の変動と投資の尺度</li> </ul>
11	証券化商品市場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 証券化商品</li> <li>・ 投資信託</li> </ul>
12	金融派生商品市場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 先物市場と先物</li> <li>・ 先物価格の決定</li> </ul>
13	金融派生商品市場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ オプション市場、コールとプット</li> <li>・ プレミアムの決定</li> </ul>
14	金融派生商品市場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 通貨スワップと金利スワップ</li> <li>・ クレジット・デリバティブ</li> </ul>
15	外国為替市場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国際金融取引</li> <li>・ 外国為替市場と相場</li> </ul>

授業科目名	東アジア経済論	担当教員名	猿渡 剛				
科目ナンバリング		開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次	2年生

授業概要	この授業では、なぜ東アジア地域・諸国の経済開発が相対的に成功してきたのか、その要因を探るとともに、東アジアのなかで日本が果たすべき役割について海外直接投資の統計・データなどに基づいて考えていきます。具体的には、海外直接投資が受入国・送出国の双方にさまざまな影響を与えることを確認し、種々のデメリットを踏まえた上で、直接投資の恩恵を最大化するためには何をすればよいのかを一緒に考えていきます。そして最後に、急速に発展する東アジア地域のなかで日本がどのような変化を遂げるべきなのかについて私案を提示したいと思います。
------	--

到達目標	東アジアの重要性の高まりを理解する。東アジア地域・諸国の経済発展の要因を理解する。グローバリゼーションの進展に伴う東アジア経済の構図の変容を理解する。日本経済の問題点と今後の方向性を理解する。～を通じて、東アジア経済に関する学術書の内容を理解したうえで、望ましい日本経済のあり方ならびに東アジア諸国との関係を自ら考え、議論することができるようになる。
------	---

評価の方法と基準	評価方法	割合 (%)	評価基準・その他備考
	平常点		
	小テスト	30	小テストを2回課す予定です。
	レポート		
	定期試験	70	空欄補充問題と論述問題で構成される期末試験があります。
	その他		

事前・事後学習	事後学習として資料や動画に再度目を通し、授業内容を各自整理しておいてください。
---------	---

事前受講を推奨する科目	
-------------	--

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『教科書は使用しません』			

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『岐路に立つアジア経済 米中対立とコロナ禍への対応』	石川幸一・馬田啓一・清水一史編	文真堂	2021年

備考	PPTスライドまたは板書によって授業を進めていきます。
----	-----------------------------

授業の計画

1	イントロダクション、直接投資とは何か	授業概要、授業の進め方、評価の方法と基準、直接投資の定義
2	海外直接投資とは何か	海外直接投資の2類型、日本の海外直接投資残高
3	日本は「お金持ち国家」	対外純資産の定義、統計でみる対外純資産、日本の対外純資産残高の推移、世界の対外・対内直接投資に占める先進国と発展途上国の割合
4	海外直接投資の近年の傾向	& Aシェアと経常収支・第一次所得収支の推移の解釈、企業の稼ぎ方の変化
5	経済停滞から脱出するために(1)	日本は豊かな国なのか、生活が苦しいと感じる理由
6	経済停滞から脱出するために(2)	「安い」日本、低い労働生産性
7	経済停滞から脱出するために(3)	変わりゆく賃金制度、加熱する人材獲得競争
8	経済停滞から脱出するために(4)	日本的雇用慣行の行く末、海外資本と日本のリゾート
9	経済停滞から脱出するために(5)	製造業、アニメ産業における海外直接投資の受け入れ
10	海外直接投資と租税回避(1)	ウェルス・マネジャーとは何か、タックスヘイブンと多国籍企業
11	海外直接投資と租税回避(2)	オフショア金融センターの台頭、ウェルス・マネジメントと海外直接投資、国外脱出・その理由と背景、日本企業によるオフショア金融センターの活用事例
12	東アジアでの & A(1)	海外での事業展開、マイノリティ出資でリスク分散、マジョリティ取得でスピードアップ
13	東アジアでの & A(2)	海外M&Aのメリットと課題、 & A 3つの波、 & Aのメリットに中小企業も気づく
14	東アジアでの & A(3)	海外 & Aの現状、相手の会社ではなくオーナー個人を評価する、アドバイザーを活用し案件を選ぶ、日本企業特有の注意点
15	まとめ	授業の振り返り、期末試験についての説明

授業科目名	民法総論	担当教員名	平山 也寸志				
科目ナンバリング		開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次	2年生

授業概要	<p>我々が生活する中で、例えば、商品を買う、電車に乗る、家を借りるという場合、それぞれ、売買契約、運送契約、賃貸借契約という「民法」が規律する法律関係に置かれる。また、民法は、事業者間の取引法の基礎でもある。このように、民法は、生活する上でも仕事をする上でも関係しうる重要な法である。</p> <p>民法典は、総則・物権・債権・親族・相続の5編からなる。前3編は「財産法」であり、後2編は「家族法」である。この授業では、財産法全体に配慮しつつ、物権編と債権編の共通事項を規律する「総則編」に焦点を当てて基礎的な内容を学ぶ。なお、2020年4月から「民法（債権関係）改正法」が施行されるなど民法の改正作業が進んでいる。また成年後見制度の利用推進計画が国により策定されている。これらの動きにも適宜、この授業で触れる予定である。</p> <p>経済学を学ぶ皆さんだからこそ、取引法である民法財産法の基礎である民法総論を学び、2年次配当の債権法、3年次配当の物権法及び消費者法の履修へとつなげて欲しい。</p>
------	--

到達目標	<p>2年秋学期配当の「債権法」、3年春学期配当の「物権法」、3年春学期配当の「消費者法」を学ぶ基礎を固めるため、民法財産法全体に目を配りつつ民法総則編中の、基本的な制度について理解する。</p> <p>民法が関係する社会現象、制度に関心を持つ。</p>
------	---

評価の方法と基準	評価方法	割合（％）	評価基準・その他備考
	平常点	0	授業中、あるいは、授業後、課題として、確認問題を解いて提出してもらうことがある。
	小テスト		
	レポート		
	定期試験	100	
	その他		平常点の評価割合は暫定的なものです。あとで確定します。

事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に、予め、配布レジュメ、指定教科書等を読んで授業に臨むことが望ましい。</li> <li>・事後には、再度、配布レジュメ及び教科書として指定する後藤巻則他編『プロセス講義民法』の「基本説明」、「趣旨説明」等の箇所を読むなどして復習することが望ましい。</li> </ul>
---------	--

事前受講を推奨する科目	
-------------	--

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『プロセス民法講義民法 総則』	後藤・滝沢・片山編	信山社	2020

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『判例プラクティス民法 第2版』	松本恒雄・潮見佳男 他編	信山社	2022
	『改正民法〔債権法〕における判例法理の射程』	伊藤進監修	第1法規	2020

備考	<p>google drive及びgoogle classroom等も使用予定。google drive等から授業の資料を取得すること等。民法総論受講後は、債権法、物権法、消費者法の受講を推奨する。</p>
----	---

授業の計画

1	ガイダンス 民法総説	ガイダンス 民法の意義 法源：制定法（民法典、民法の沿革、改正）
2	民法総説	法源続き：制定法（特別法）、慣習法、判例
3	民法総説	民法の基本原則 権利能力平等の原則、所有権絶対の原則、契約自由の原則、過失責任の原則
4	民法総説	民法の基本原則の変容
5	私権の社会性	公共の福祉（民法1条1項）、信義誠実の原則（1条2項）、権利濫用の禁止
6	権利の主体	胎児の権利能力、失踪宣告など
7	権利の主体	意思能力、行為能力、制限能力者（未成年者）
8	権利の主体	成年後見制度（法定後見〔後見、保佐、補助〕、任意後見） 成年後見制度利用促進計画など
9	権利の客体	物など
10	法律行為と意思表示	心裡留保（93条）、虚偽表示（94条）、錯誤（95条）、詐欺、強迫（96条）
11	法律行為と意思表示	無効原因（公序良俗違反（90条）など）、取消原因、無効と取消の違い、法律行為の付款（条件・期限）
12	代理	任意代理、法定代理、有権代理、表見代理、無権代理
13	時効	消滅時効、取得時効
14	法人制度	法人制度（一般社団法人、一般財団法人、公益社団法人、公益財団法人）など
15	全体のまとめ	その他、近時の改正法など



授業科目名	情報システム論	担当教員名	福田 龍樹				
科目ナンバリング		開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次	2年生

授業概要	今日、情報システムは生産活動だけでなく我々の生活に密接に結びついており、コンピュータは我々のあらゆる活動の中心的存在となっている。社会基盤としての情報システムはさらに発展を続けることで我々の生活をより豊かなものにする。本講義では、国家資格である「ITパスポート試験」のカリキュラムの中の、テクノロジー系に絞って講義する。社会人として必要なIT技術を習得する。					
到達目標	情報システムに関する基本的な概念と用語について理解ができる。また、ITパスポート試験におけるテクノロジー系の範囲について、理解することができる。					
評価の方法と基準	評価方法	割合（％）	評価基準・その他備考			
	平常点					
	小テスト	50				
	レポート					
	定期試験	50				
	その他					
事前・事後学習	各項目に関する小テストを実施する。期間中は何度でも受けられるため、事後学習として繰り返し受けてほしい。また、本授業ではITパスポート試験のテクノロジー系に絞って扱うが、それでもすべての項目を深く扱うことは時間的に難しいため、さらに深く学習したいと思った内容については、各自でさらに学習してほしい。もしもわからないことが生じた場合は積極的に質問してほしい。					
事前受講を推奨する科目						
教科書	書籍名	著者	出版社	出版年		
	『令和4-5年度版 ITパスポート試験 対策テキスト&過去問題集（よくわかるマスター）』	株式会社富士通ラーニングメディア	FOM出版	2021年		
参考書	書籍名	著者	出版社	出版年		
備考						

授業の計画

1	ガイダンス・離散数学	主に2進数について学ぶ
2	情報に関する理論	主にデジタル化について学ぶ
3	アルゴリズムとプログラミング1	主にデータ構造について学ぶ
4	アルゴリズムとプログラミング2	主にアルゴリズムについて学ぶ
5	コンピュータ構成要素1	主にプロセッサやメモリについて学ぶ
6	コンピュータ構成要素2	主に入力デバイスについて学ぶ
7	システム構成要素1	主に情報システムの構成について学ぶ
8	システム構成要素2	主にシステムの評価指標について学ぶ
9	ソフトウェア	主にOSの機能について学ぶ
10	情報デザインと情報メディア	主に情報デザインやマルチメディア技術を学ぶ
11	データベース1	主にデータベースのモデルについて学ぶ
12	データベース2	主にデータの正規化について学ぶ
13	ネットワーク1	主にネットワークの方式について学ぶ
14	ネットワーク2	主にプロトコルについて学ぶ
15	セキュリティ	主に情報セキュリティやインターネット上の驚異について学ぶ

授業科目名	簿記原理 (国)	担当教員名	高橋 和幸				
科目ナンバリング		開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次	2年生

授業概要	<p>講義ではまず、商企業の主な取引の仕訳や記帳について復習する。その後、個々の重要な勘定科目ごとに特有な処理の内容に取り組み、それぞれに関連する補助簿の記入や管理について学ぶ。そして最終的に決算整理事項の処理をふまえた決算について学び、さらには財務諸表の作成についての理解をめざす。</p>
------	--

到達目標	<p>簿記に関心を持つ。          商企業における主要な勘定科目の意味を理解し、記帳できるようになる。          決算の処理を通じて、利益計算の構造を理解する。          簿記の果たす役割について理解する。</p>
------	---

評価の方法と基準	評価方法	割合 (%)	評価基準・その他備考
	平常点	30	講義中の問題演習や課題の提出状況に応じて加算する。
	小テスト		
	レポート		
	定期試験	70	
	その他		

事前・事後学習	<p>事前学習(予習)としては、教科書の範囲を熟読しておくこと。事後学習(復習)としては、その回の配布資料等をもとに教科書の該当範囲の内容を整理したり、問題演習に取り組むこと。</p>
---------	--

事前受講を推奨する科目	簿記原理	
-------------	------	--

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『複式簿記概説』	鶴見正史編著	五紘舎	2020年

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『簿記テキスト(最新版)』	山下正喜編著	創成社	2009年

備考	<p>簿記原理 の履修後に本講義を受講することが望ましい。また、電卓等の計算器具を毎回持参すること。そして、毎回の積み重ねが重要であることに留意すること。          本科目履修後は、「会計学原理」、「簿記原理」、「簿記原理」の履修が推奨される。</p>
----	--

授業の計画

1	はじめに	講義概要などのガイダンス
2	記帳の基礎	簿記一巡の手続の確認
3	諸取引の記帳(1)	商品勘定の処理
4	諸取引の記帳(2)	売掛金・買掛金・貸倒れの処理
5	諸取引の記帳(3)	債権・債務に関する記帳
6	諸取引の記帳(4)	手形の意義と処理
7	諸取引の記帳(5)	有価証券および固定資産の処理
8	諸取引の記帳(6)	資本金と税金
9	決算(1)	試算表と決算整理
10	決算(2)	費用・収益の前受・前払いと未収・未払い
11	決算(3)	8けた精算表の作成(1)
12	決算(4)	8けた精算表の作成(2)
13	決算(3)	損益計算書と貸借対照表の作成
14	伝票	証憑と伝票制
15	全体のまとめ	複式簿記システムについて総括する。

授業科目名	管理科学	担当教員名	藪内 賢之				
科目ナンバリング		開講学期	秋学期	単位数	2単位	配当年次	2年生

授業概要	<p>何か立案、計画、実行するには、意思決定をしなければ実行に移すことはできない。人生経験や勤も大切だが、計画や決定は資料を分析し、有効な代替案から最適なものを見出すことも大切である。</p> <p>本授業では、特にオペレーションズ・リサーチ(OR)の内容を扱う。ORは意思決定を科学的に行うための方法論であり、企業経営の問題、行政の問題など、人の行動における意思決定や評価などに適用されている。本授業では、このORの習得を目的としている。</p> <p>簡単に言うと、本科目では難しい数学を使わずに科学的な手法を学ぶ。また、授業中にトレーニングを行い、理解を深めてもらう。</p>
------	---

到達目標	<p>経済および経営の領域で有用なオペレーションズ・リサーチの2手法(ゲーム理論、更新問題、AHP)から、科学的な問題解決の方法を理解する。</p> <p>そのために、(1)論理的思考、(2)システム思考の習得を目標とする。</p>
------	--

評価の方法と基準	評価方法	割合(%)	評価基準・その他備考
	平常点		
	小テスト	40	計算問題(ゲーム理論、更新問題)
	レポート	20	AHP
	定期試験	40	授業内容の理解度を問う。
	その他		受講態度や自習の成果を加味する。

事前・事後学習	<p>授業内容をより理解するために、事前に教科書の該当するところを読んでもらいたい。また、授業内容は復習することで理解が深まります。十分な時間を費やして事後学習すること。</p>
---------	---

事前受講を推奨する科目	
-------------	--

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『入門ガイダンス 経営科学・経営工学 第3版』	古殿幸雄	中央経済社	2022

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年

備考	<p>授業形態：対面授業 授業実施の手段：対面 質疑応答意見交換の方法：対面が難しい場合はe-mailでその方法を相談する。 コンテンツ配信日時：時間割通り 受講したと見なす条件：授業に参加すること</p>
----	---

授業の計画

1	ガイダンス	授業内容、目標、評価方法など
2	ゲーム理論 (1)	ゼロ和2人ゲーム
3	ゲーム理論 (2)	純粋戦略 (1)
4	ゲーム理論 (3)	純粋戦略 (2)
5	ゲーム理論 (4)	混合戦略 (1)
6	ゲーム理論 (5)	混合戦略 (2)
7	ゲーム理論 (6)	混合戦略 (3)
8	ゲーム理論 (7)	ゲーム理論小テスト, 解説
9	更新問題 (1)	時間的価値
10	更新問題 (2)	最適な取替時期 (1)
11	更新問題 (3)	最適な取替時期 (2)
12	更新問題 (4)	更新問題小テスト, 解説
13	AHP (1)	一対比較法
14	AHP (2)	総合評価
15	AHP (3)	整合性

授業科目名	ビジネス法入門	担当教員名	和久野 藍				
科目ナンバリング		開講学期	秋学期	単位数	2単位	配当年次	2年生

授業概要	<p>企業活動を規制する法律のうち、「会社法」、「金融商品取引法」、「商法」について概観します。授業の目的は、それぞれの法律の役割や特徴など大枠をつかみ、これらの法律を詳しく学ぶための基礎作りを行うことです。ビジネス法の入門科目であるため、法律にあまりなじみのない受講者にも理解できるよう、特に専門用語をなるべく一般用語に置き換えるなどわかりやすく解説します。</p>						
到達目標	<p>上記の法律について、その目的や各法の特徴を理解する。それをふまえ、制度の概要を説明し、実際の事件に適用できるようになる。</p>						
評価の方法と基準	評価方法	割合 (%)	評価基準・その他備考				
	平常点						
	小テスト						
	レポート	100	条文等の細部の把握より、制度を全体的に理解しているか、論理性を重視する。				
	定期試験						
	その他						
事前・事後学習	<p>事後学修として、毎回の授業内容を簡単にまとめてみることをお勧めします。</p>						
事前受講を推奨する科目	特になし						
教科書	書籍名	著者	出版社	出版年			
	『教科書は使用しない』						
参考書	書籍名	著者	出版社	出版年			
	『使用しない』						
備考	<p>基本は対面講義。遠隔授業となる場合はオンデマンド型での実施となり、Google Classroom で講義資料 (Word/PDFを予定) を配信する。質疑応答はメールで行い、内容を以降の講義において他の受講生に共有することで、学生同士の意見交換とする。ファイル公開日時は、時間割通り。Classroomを利用して出席をとる (これにより受講とみなす)。詳細は講義開始時に説明する。</p>						

授業の計画		
1	オリエンテーション	授業の概要について説明します。
2	会社法の概観	企業の典型である「会社」について定めている「会社法」の基礎を概観します。
3	会社法の意義と特徴	会社法の規定する「株式会社」について、その特徴となる4つのルールを解説します。
4	株式会社における「株式」	「株式会社」における「株式」に関するルールを解説します。
5	株式会社における「機関」	「株式会社」における「機関」（株主総会・取締役会など）に関するルールを解説します。
6	株式会社における「機関」	「株式会社」における「機関」（株主総会・取締役会など）に関するルールを解説します。
7	金融商品取引法の概観	株式投資などの「金融商品取引」について定めた金融商品取引法の基礎部分を解説します。
8	金融商品取引法における主要なプレイヤー	金融商品取引法の規律対象となるメインプレイヤー、「投資者」「金融商品取引業者」「上場企業」について解説します。
9	金融商品取引法における「不正取引」	不正な取引を禁じる、「不正取引」に関するルールを解説します。
10	金融商品取引法における「不正取引」	「不正取引」のうち、「インサイダー取引」について解説します。
11	金融商品取引法における「不正取引」	「不正取引」のうち、「インサイダー取引」について解説します。
12	金融商品取引法における「不正取引」	各種の「相場操縦」について見ていきます。
13	商法 商行為概念、商人	商法の「適用範囲」を決めるための概念である「商行為」、「商人」について説明します。
14	商法 商業登記、商業使用人	「商業登記」の意義と、その効力、商人がビジネスを行う際に雇用する「商業使用人」（いわゆる従業員）について説明します。
15	商法 代理商、商号	商人が、商業使用人以外に活用する外部の業者である「代理商」と、商人が自身のビジネスに用いる名称である「商号」について説明します。



授業科目名	国際政治経済学	担当教員名	魏 芳				
科目ナンバリング		開講学期	秋学期	単位数	2単位	配当年次	2年生

授業概要	本講義は経済学の視点から国際政治経済の諸問題を学習します。具体的に、ゲーム理論の視点から、投票行動、選挙競争、汚職など政治学の経済分析を学び、政治家の政策選択の意思決定を理解します。そのうえ、経済学の余剰分析を用いて、貿易政策の政治経済分析と地域貿易協定展開の重要性を学び、国際相互依存下の国際協調を理解します。
------	--

到達目標	ゲーム理論で考える政治の経済分析を習得します。 貿易政策決定に影響する利害関係者の行動を分析し、保護貿易政策がなぜ採用されやすいか理解します。 貿易交渉により多国間で協力して自由貿易を推進する意味を理解し、地域貿易協定締結の効果を学習します。
------	---

評価の方法と基準	評価方法	割合 (%)	評価基準・その他備考
	平常点	30	
	小テスト		
	レポート		
	定期試験	70	
	その他		

事前・事後学習	GOOGLE DRIVEにアップロードする講義資料をよく読んで予習・復習を行ってください。 毎回授業後に、FORMSの課題が課されています。復習したうえに取り組んでください。
---------	--

事前受講を推奨する科目	
-------------	--

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『教科書は使用しない』			

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『ゲーム理論で考える政治学』	浅古泰史	有斐閣	2018
	『国際経済学をつかむ(第2版)』	石川城太・椋寛・菊地徹	有斐閣	2007
	『国際関係から学ぶゲーム理論』	岡田章	有斐閣	2020

備考	
----	--

授業の計画

1	ガイダンス	講義の概要、進め方、評価方法・基準などの説明
2	ゲーム理論で考える政治学	ナッシュ均衡、フォーマル・モデル
3	投票の意思決定	人々が投票するのはなぜか
4	選挙戦争	誰の意見が政治に反映されるのか
5	政治家の汚職	モラルハザード問題
6	貿易政策の経済分析	余剰分析と貿易の利益
7	保護貿易と自由貿易	輸入関税政策
8	貿易政策の政治経済学（１）	保護貿易はなぜ支持されやすいのか
9	貿易政策の政治経済学（２）	利益団体の政治活動と献金競争
10	貿易政策の政治経済学（３）	政治活動と貿易政策の決定
11	国際貿易ルール	GATTとWTOの歴史と制度
12	国際相互依存（１）	戦略的貿易政策
13	国際相互依存（２）	二国間の貿易交渉と国際協力
14	地域貿易協定（１）	地域貿易協定の現状と経済効果
15	地域貿易協定（２）	地域貿易協定の政治経済学